中課題「地域資源管理」研究会（第１回）の開催～（報告）

地域資源工学研究領域　地域エネルギーユニット
福田浩二・後藤眞宏

今年度からスタートした農研機構中長期計画（第４期）では、大課題（18）、中課題（85）を設定して研究に取り組んでいます。その中で、中課題「農村地域の構造や環境等の変化に対応した地域資源の管理・利用の高度化技術の開発（地域資源管理）」を担当する農研機構農村工学研究部門等の職員で組織する研究会の第１回を７月６日（水）に栃木県那須野ヶ原地域で開催しました。

本研究会は、中課題を構成する５つの小課題間の情報共有や連携を促進することにより、各小課題の目標達成はもとより中課題全体としても目標を達成して、これらの研究成果の着実な社会実装を図るための考え方や方法等について検討することを目的としています。

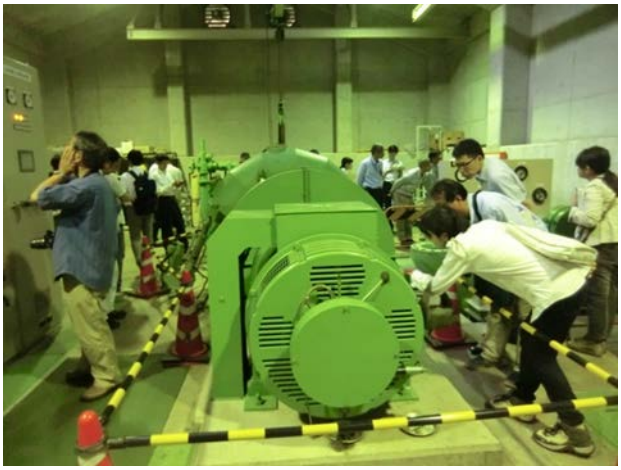
第1回目は、大規模な土地改良事業の実施地域であるとともに、水田、畑作、畜産などの多彩な農業や豊富な地域資源を活用したエネルギー事業など多面的な地域振興活動を積極的に展開している那須野ヶ原土地改良区連合管内を開催場所に選定しました。研究会では、関係施設の視察（那須野ヶ原用水ウォーターパーク、百村発電所（落差工に設置）、那須野ヶ原発電所（幹線水路と調整池の落差を利用）、栃木県畜産酪農センター（バイオガス発電）や那須野ヶ原土地改良区連合（星野参事、吉澤事務局長、郡司事業主査）との意見交換を行いました。

土地改良区連合との意見交換会では、最初に、小水力発電の積極的導入など全国でも有数の多面的活動を行っている土地改良区の運営や事業について活発に質疑応答を行いました。
次に、増本地域資源工学研究領域長から、研究会、土地改良区双方に対し、当中課題の「全体方向に関する視点」として、①小課題毎の“技術の山”、小課題を連携して全体として“社会実装の山”をそれぞれ高くすることの両方を目標とすること、②小課題は自分の“技術の山”を高くしつつ、“社会実装の山”を高くすることにいかに貢献するかを考えること、について問題提起しました。

土地改良区は「全体方向に関する視点」について理解した上で、土地改良区自体も多くの同様な取り組みを行っていること、技術の山と社会実装の山はつながるものであり、目の前にある課題を大きくすることで、目指すべきところに行き着くと考えているなどの意見がありました。また、その山をどう大きくするかが課題であることや目標（キーワードやキャッチフレーズなど）を設定することが重要であり、次世代に繋がる大きな目標や改良区の目

標(1000 年の森を育み、エネルギーと食を自給する)を主張してから地域との関係もうまくいったことなどの指摘もありました。

さらに、土地改良区、研究会が“つながる(連携)”を軸として意見交換を行い、地域の課題をクリアするために、様々な関係者が連携して取り組む必要性について、双方が農村協働力の取り組みや地域特産物の利用等具体例を示しながら議論を深め、最後に研究会として年内に合計 5 回の研究会を開催して具体的な目標を設定することを決め、閉会しました。



那須野ヶ原発電所見学

意見交換会